

「ただいま」

三年ぶりにタクシー越しから見えたパリンカを目にしてふと、思った。
暦の上では早春とはいえ、杜の都・仙台の夕暮れはまだ肌寒い。
でも心は裏腹にライブへの期待と旅の開放感で高まっていくこの対比。
はてさて今年の演出や、いかに？

< 第一部 >

ソックス TiII There Was You プレヴェールに捧ぐ 冬のバラ
リラのホテル 今日は雨の日です Beep Beep Be オーライ
悲しみ 憂うつな肉体 ひまわり

今回はかしぶちさんの諸事情により、急遽サポートとして板倉さんが参加。
わずか三時間の音合わせで臨んだとは思えない位に息の合った演奏は流石の一言に
尽きます。

21世紀 ver.の「屋根裏」と(勝手に)解釈している「ソックス」の軽快なリズムで始まって
ビートルズやゲنزブールのカヴァーで昔に溯り高校時代に作曲した作品が紡がれる
「叙情的な」ラインナップでありました。



< 第二部 >

さよならのダイアリー TWO 柔らかいポーズ
S・E x 夜の呪縛 気球と通信
屋根裏の二匹のねずみ 二十世紀鋼鉄の男 早春の七夕

一部が「穏やかな日だまり」だとすれば、二部はさしずめ「秘密めいた闇」では？
レコーディングまでしたのにボツとなってしまった「さよならのダイアリー」
口ウソクが灯る中「早春の怪談」でも始まるのかと一瞬混乱してしまった新曲「夜の呪縛」。
今回は会場の女性総動員で矢野さんパート合唱の「屋根裏の二匹のねずみ」は圧巻かつ複雑
でもこの手の経験は一人より不特定多数の方が精神的にラクかもしれないですね(笑)
トリを飾るはライブ主催者・三浦さんの作詞による「早春の七夕」、言葉遊びが実に絶妙。
密かに「この曲一体どうなるんだろう？」と気になっていたのですが杞憂に終わって何よ
り

<アンコール>

ドレス一枚と愛ひとつ フレンズ トラベシア

昨年の仙台ライブのタイトルでもあった「ドレス一枚と愛ひとつ」はいつの日にかカエターノ・ヴェローゾの原曲と聴き比べたい所。

またまた女性客総動員で矢野さんパートの「フレンズ」、やっぱり歌うと難しい(泣)そして最後は「トラベシア」でほんわかした余韻で締めくくり。

毎年パリンカのライブでは誰かしらのおめでたい事に遭遇したりするのですが、この曲の賜物なのかしらん？

HP 掲載に当たりオリジナル原稿より改行位置変更させて頂きました。

2003.05.06UP (檜の会 KRAFT.WARTZ)